

井上定期能 九月大阪公演

令和5年9月10日(日)
午後12時45分開演
於 大機能楽堂

解説 橋本光史

田村

素謡

素子
飯上吉太郎
井上裕久
茶番 吉浪壽晃

仕舞

放下僧

小唄

橋本光史

融

浦部幸裕

地謡

大槻裕一
山田 薫
吉浪壽晃
上野朝彦

地謡

林本 大
吉田篤史
井上裕久
吉浪壽晃

二時十五分頃

能

〔休憩十五分〕

熊野

朝嵐 寺澤拓海

熊野 寺澤幸祐

村雨留

従者 原

陸

守家由剛
久田陽春子

赤井啓三

後見

吉田篤史
橋本光史

地謡

大槻裕一 佐伯紀久子
上野朝彦 吉浪壽晃
山田 薫 井上裕久
林本 大 浦部幸裕

附祝言

四時頃終了予定

主催 井上定期会

後援 大阪市・大阪市教育局委員会



寺澤拓海 寺澤幸祐 吉浪壽晃 井上裕久



大阪メトロ「谷町四丁目」10番出口 徒歩五分
市バス「国立病院」南へすぐ

「熊野 ゆや」(村雨留 むらさめどめ)
遠江国池田の宿の熊野(シテ)は母親の病氣に平宗盛(ワキ)に帰国を願いますが許されず悩んでいます。そこへ侍女朝顔(ツレ)が母の手紙を携えて迎えにやってきます。熊野は手紙を宗盛に読み聞かせ、帰国を強く望みますが宗盛は聞き入れず、気晴らしに清水寺へ花見に誘います。華やかな春の景色に熊野は一人悲しみに沈みます。清水寺に着くと熊野は親世菩薩音に母の無事を祈りますが、宗盛は酒宴を催して熊野に舞を舞うように勧めます。にわか村雨が降り花の散るのを見て熊野が心の内を和歌にしたためると宗盛は心打たれ、哀れに思っ熊野の帰国を許します。熊野は観音様のご利益と喜び、故郷へと帰っていきます。今回は「村雨留」という小書(特殊演出)で演じます。舞の最中に春雨が降り出して花を散らすので途中で切り上げる演出で、常とは違う奏法で表現します。

お客様へのお断り

- ・お客様都合の払い戻しはできません。
- ・全巻自由席です。
- ・上演中のお出入りはご遠慮ください。
- ・場内での私語・飲食・撮影・録音はご遠慮ください。
- ・場内では携帯電話の呼び出し音をお切りください。

井上定期能 九月公演

FAX 06-6328-5147

枚数・券種	前売券	枚	学生券	枚
氏名				
住所	〒			
電話番号				

<料金> 全館自由席

前売券 3,800円
当日券 4,500円
学生券 2,000円

(お申込み・お問い合わせ)

井上定期会 大阪事務所

TEL / FAX
06-6328-5147
(寺澤方)